



# 多文化共生防災教育プログラム - ワークショップ 多文化共生で考える防災と健康問題 -

企画・統括・運営・実施：大分大学医学部看護学科専門科目「国際医療・看護論」  
実践看護学講座 井上 亮・基盤看護学講座 金崎理子・非常勤講師 原田千鶴  
ワークショップファシリテーター：  
大分大学災害看護研究チーム：佐藤祐貴子・安藤敬子・箕河原靖子  
連携機関：明日香学園・大分市企画部国際課

## I. 地域が抱える課題と本事業の目的

### 1. 地域課題

- 多文化共生は進む一方、平時の交流・相互理解の機会に限られる。
- 異なる言語や文化の違いは、災害時の防災情報・支援へのアクセス格差が生じやすい。

### 2. 本事業の目的

「防災」を共通テーマに、留学生と日本人学生が協働して学ぶ場を創出し、多文化間の「相互理解」と「共助意識」を育成する。

## II. 本事業の全体像

正課科目と地域課題が接続する一体型プログラム

- 事前 ◆ 医学部看護学科 3 年次選択科目「国際医療・看護論」の履修
- 中核 **ワークショップ**  
「多文化共生で考える防災と健康問題」
- 事後 振り返り：防災・多文化共生に関する認識

## III. 多文化共生防災ワークショップ

- 実施日：2025年10月28日（火）
- 会場：ホルトホール大分（会議室）
- 参加者
  - ◆ 大分大学看護学科 国際医療・看護論履修3年生12名
  - ◆ 県内専門学校 留学生 1年生33名
- 実施体制：科目担当教員+災害看護研究チーム
- ワークショップのねらい
  - ・ 防災・避難生活を理解し防災時求められる自助・共助の行動を考える
  - ・ 多様な文化背景をもつ人々と共生する視点を対話を通して学ぶ

### 6. ワークショップの構成内容

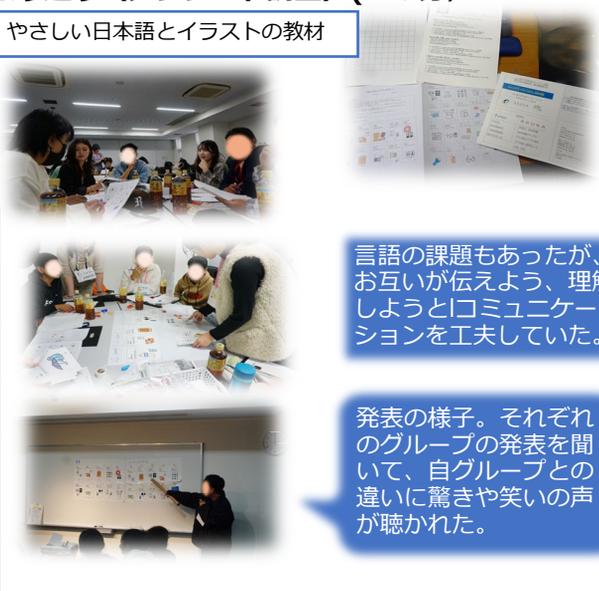
- 1部 演習導入ミニレクチャー(30分) 災害の基本的知識
- 2部 グループワーク(50分)  
テーマ「災害時に3日間生き抜くための非常持ち出し10アイテム」のグループ選定

### 7. 振り返り(アンケート調査)(10分)

やさしい日本語とイラストの教材

表1 各グループが選択した10アイテム

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
convenience store part-time job	水	スマートフォン	身分証明書	非常食	衛生用品一式	お金(現金)	電池・充電器	処方薬・常備薬	トイレットペーパー	SC: tobacco
Sake	水	非常食	救急箱	スマートフォン	電池・充電器	身分証明書	衛生用品一式	お金(現金)	ライター	古新聞
Karaoke	水	非常食	処方薬・常備薬	スマートフォン	身分証明書	衛生用品一式	交換下着	お金(現金)	電池・充電器	SC: シート
Volleyball Love	水	非常食	スマートフォン	救急箱	電池・充電器	衛生用品一式	身分証明書	トイレットペーパー	交換下着	雨具
Three siblings	水	非常食	スマートフォン	衛生用品一式	救急箱	身分証明書	お金(現金)	電池・充電器	処方薬・常備薬	ビニール袋
Ramen	水	非常食	お薬手帳	救急箱	携帯ラジオ	身分証明書	お金(現金)	スマートフォン	交換下着	電池・充電器

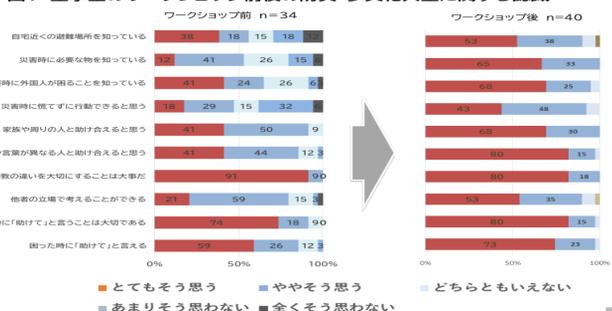


言語の課題もあったが、お互いが伝えよう、理解しようとしてコミュニケーションを工夫していた。

発表の様子。それぞれのグループの発表を聞いて、自グループとの違いに驚きや笑いの声が聴かれた。

## IV. ワークショップ前後の学生の反応

図1 全学生のワークショップ前後の防災・多文化共生に関する認識



### 1. 参加学生の防災・多文化共生に関する認識の変化(図1)

災害時の行動や備えに対する理解が深まり、慌てずに行動できるという認識が向上した。さらに、文化や言語の違いを前提とした相互扶助や、困ったときに助けを求められるといった項目においても、肯定的回答が増加した。

### 2. 国際医療・看護論履修学生学び

看護学生の学びの自由記述から、文化や価値観の違いへの気づきが看護観の拡張につながったことが示されていた。学生は、文化的安全性や一方的な「正しさ」を押しつけない姿勢の重要性を、留学生との対話を通して実感的に理解していた。その結果、多文化共生を支える態度への理解が深まり、国際看護やグローバルな健康課題への関心へと学びが発展していた。

## V. 本事業の評価

本支援事業により、災害時の行動や避難生活への理解が深まり、不安の軽減と行動への自信が認められた。また、文化や価値観の違いを前提とした対話を通じて、相互の信頼感が育まれ、地域の一員としての認識が共有された。これらの成果から、平時の対話と協働の場が創出され、事業目的は概ね達成された。

## 謝辞

本事業の実施にあたり、明日香学園ならびに大分市企画部国際課の皆様、また学内の災害看護研究チームよりご理解とご協力を賜りました。地域の関係機関との協働を通じて、多文化共生を地域防災の実践として学ぶ貴重な機会を得られたことに、心より感謝申し上げます。